

07-12 会議: Beyond 5Gレディーショーケース準備・運営

日時: 2025-07-12 18:15:04

場所: 大阪・関西万博 夢洲会場

参加者: 村上誠次郎（総務大臣）、影江隆（室長）、藤井仁香（係長）、動画ナレーション（Speaker 4）

概要

本議事録は、2025年5月26日から6月3日に大阪・関西万博の夢洲会場で開催される「Beyond 5Gレディーショーケース」に関する会議内容をまとめたものです。総務省主催の本催事は、次世代通信技術（Beyond 5G）の社会的意義や最新技術の紹介、体験型コンテンツの準備・運営、国際連携の推進などを目的としています。内容は催事の概要、各ゾーンの見どころ、社会的意義、教育的・国際的インパクト、そして具体的なアクション項目に整理されています。

催事概要と目的

- 総務省主催の「Beyond 5Gレディーショーケース」が大阪・関西万博の夢洲会場で、2025年5月26日から6月3日まで開催される。
- 本催事は、5Gを超える次世代通信技術（Beyond 5G）の準備が進んでいることを示すショーケースであり、国民に通信技術の重要性と進化を広く知ってもらうことを目的としている。
- 総務省の村上誠次郎大臣が主導し、担当は室長の影江隆氏と係長の藤井仁香氏。

ショーケースの構成と見どころ

- ショーケースは3つのゾーンで構成されており、来場者は順番に各ゾーンを体験する形式。
 - 通信の歴史と進化
 - 過去から未来への通信技術の変遷を180度の大型スクリーン映像で体感できる。
 - 例: のろしや飛脚などの原始的通信手段から、電話、インターネット、携帯電話（3G、4G、5G）への進化を紹介。
 - Beyond 5Gは単なる5Gの延長ではなく、AI時代のあらゆる産業の基盤となるデジタルインフラであることを強調。

ii. 次世代通信による未来社会の体験

- 来場者が次世代通信によって実現される未来の社会や生活のイメージを、少しでもリアリティや没入感を持って体験できるよう、複数のコンテンツを用意。
 - 空飛ぶ基地局「HAPS」体験ブース
 - 成層圏を飛行する無人航空機に携帯基地局を搭載し、空から通信エリアを拡大する技術。
 - 災害時など通信が使えないエリアにHAPSを飛ばして通信を復旧させる体験が可能。
 - HAPS技術は実用化が近づいており、空や宇宙の設備とつながり、通信エリアが広がり便利になるBeyond 5G時代の技術として紹介される。
 - 地球から月面ロボット遠隔操作体験
 - VRゴーグルを用いて、地球から月面にあるロボットを遠隔操作する体験。
 - 通信技術の進化により、製造現場など様々な業界でリモート作業が可能となる未来を提示。
- その他にも体験型コンテンツが複数あり、子どもから大人まで幅広い層が楽しめる設計。

iii. 最先端技術の展示

- Beyond 5Gの先端技術を実機や映像、パネルで紹介。
 - 総務省と日本唯一の公的研究機関NICT（情報通信研究機構）が研究開発を推進。
 - 企業や研究者がブースで直接解説を行い、専門知識を持つ来場者や関心の高い方にも対応。
 - 日本の最新技術や研究内容を国内外に発信し、国際連携やネットワーク構築を目指す。

社会的意義と期待

- 通信は現代社会において水や空気のように不可欠なインフラであり、仕事やプライベートを支える基盤。
- 通信の存在や仕組みは目に見えにくく、普段意識されにくいですが、万博を通じてその価値を再認識してもらう狙い。
- ゾーン1から3までの一連の流れを通じて、通信について「知る、楽しむ、学ぶ」という要素が盛り込まれている。
- 子どもたちが次世代通信を体験することで、将来の夢や目標、仕事観に影響を与える可能性。
- 技術や研究は難しそうな印象を持たれがちだが、通信は生活を便利にし、社会を豊かにするものであることを伝える。

- 日本の5G・Beyond 5G技術を海外来場者にも知ってもらい、国際的な連携やビジネス創出を期待。
- Beyond 5Gによって、未来の暮らしがさらに便利で豊かなものとなり、新しい産業やビジネスが生まれ、地方創生にも貢献することが期待される。

アクション項目

[] 万博会場での「Beyond 5Gレディショーケース」各ゾーンの体験コンテンツ準備と運営

[] HAPS体験ブースおよび月面ロボット遠隔操作体験の設営・運用

[] NICTおよび企業・研究者による最先端技術展示の調整と解説体制の構築

AI提案

会議で結論が出ていない、または明確な対応策が不足している課題は以下の通りです。ご注意ください。

1. 万博会場での「Beyond 5Gレディショーケース」各ゾーンの体験コンテンツ準備および運営体制について、具体的な担当者やスケジュール、運営方法が未確定であり、円滑な実施に向けた詳細な調整と計画策定が急務となっています。
2. HAPS体験ブースおよび月面ロボット遠隔操作体験の設営・運用に関して、設営手順や必要機材、担当者、運用マニュアル、当日のトラブル対応フローなどの具体的な実施内容が未定であり、詳細な計画と役割分担の明確化が必要です。
3. NICTおよび企業・研究者による最先端技術展示の調整や解説体制の構築について、参加企業・研究者の確定、展示内容の最終調整、解説担当者の割り当てや説明内容の標準化が未解決であり、関係者間での調整が求められています。
4. 上記各タスクの詳細未定や調整遅延により、体験コンテンツや展示の準備・運営が万博開催日までに間に合わないリスク、また担当者不明確による責任所在の曖昧化や当日運営トラブル発生リスクが顕在化しています。